

岩手県金融経済概況（平成 30 年 6 月）

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復基調を続けている。

最終需要の動きをみると、個人消費は底堅く推移している。公共投資は高水準ながらも減少傾向にある。住宅投資は下げ止まっている。設備投資は増加傾向を維持している。

生産は、緩やかに持ち直している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は、18 ヶ月連続で前年を上回った。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、底堅く推移している。

百貨店売上高（全店舗ベース；平成 30 年 5 月）は、2 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△6.0%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；平成 30 年 5 月）は、2 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△2.0%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；平成 30 年 6 月）は、10 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△8.8%）。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（平成 30 年 6 月）は、7 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△35.3%）。

新設住宅着工戸数（平成 30 年 5 月）は、3 ヶ月連続で前年を上回った（前

年比+8.2%)。

—— 持家（前年比+15.9%）は 2 ヶ月連続で、貸家（同+10.9%）は 3 ヶ月連続で前年を上回った。一方、分譲（同△30.9%）は 3 ヶ月振りに前年を下回った。

民間設備投資（短観ベース；平成 29 年度実績、30 年度計画）は、29 年度実績（前年比△2.0%）、30 年度計画（同△3.1%）ともに前年を若干下回っている。

—— 平成 29 年度（実績）は、製造業は概ね前年並みとなった一方、非製造業の一部で計画の後ずれがみられたことなどから、全産業では前年を若干下回った。

—— 平成 30 年度（計画）は、製造業が新製品対応投資等により前年を 1 割方上回る一方で、非製造業は既往の投資一服等から前年を 2 割方下回る計画となっており、全産業では前年を若干下回る計画。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（平成 30 年 5 月）は、5 ヶ月連続で前年を下回った（前年比△2.4%）。

3. 生産動向

生産は、緩やかに持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；平成 30 年 4 月）は、5 ヶ月振りに前月を上回った（前月比+8.5%）。

—— 主要業種別にみると、食料品、電子部品・デバイス、生産用機械が上昇し、パルプ・紙・紙加工品、電気機械、はん用機械が低下した。

なお、四半期の動きをみると、30/1～3 月は 2 期振りに前期比減となった（29/4～6 月：前期比+1.9%、7～9 月：同△2.5%、10～12 月：同+3.3%、30/1～3 月：同△4.8%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状況が続いている。

有効求人倍率（季節調整値；平成 30 年 5 月）は、1.44 倍と高水準を維持している（平成 25 年 5 月以降 61 ヶ月連続で 1.00 倍以上で推移＜過去最長＞）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；平成 30 年 5 月）は、前年を上回った（前年比+0.7%；平成 24 年 3 月以降 75 ヶ月連続で増加）。

雇用者所得（県内合計値；平成 30 年 4 月）は、名目賃金指数（前年比+0.7%）が前年を上回ったものの、常用雇用指数（同△4.1%）が前年を下回ったため、4 ヶ月連続で前年を下回った（同△3.4%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；平成 30 年 6 月）は、光熱・水道および交通・通信の上昇等を主因に 18 ヶ月連続で前年を上回った（前年比+1.0%）。

6. 企業倒産

企業倒産（平成 30 年 6 月）は、3 件、79 百万円（前年同月；6 件、517 百万円）と落ち着いた動き。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（平成 30 年 5 月）は、預金は前年を下回った一方、貸出は前年を上回った。貸出約定平均金利は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>